

長崎くんち・今年のみどころ（一八編）

越中 哲也

一、はじめに

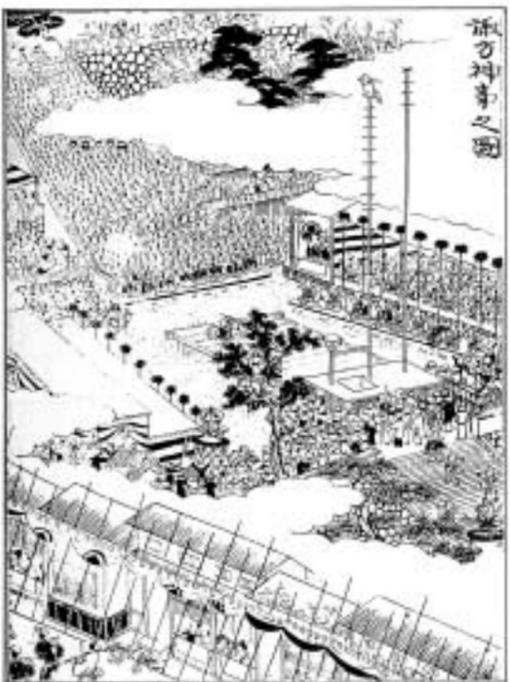
私が「ながさきの空」に「長崎くんち」を編集してより今年で十八回になるので「長崎くんち」については一通り書いたが、最近、各方面より「長崎くんち」の始まりについての問合せが多いので今回は先ず「長崎くんち」の歴史を書くことにした。

二、くんち物語

「くんち」の語源は、中国では（旧）九月九日を「重陽」の日と呼び、其の日を祭礼の日としていたが、我が国にも其の風習が平安時代すでに京都に伝えられていた。九州方面でも室町時代になると九月九日を氏神の祭礼日と定め、その日をクンチ「九日」と呼ぶようになっていた。

この言葉が、諏訪神社が長崎の氏神として祀られるようになってきたとき博多方面より伝えられ現在に至っている。

一五七一年（元亀二）長崎にポルトガル船が初めて入港した当時は、領主長崎甚佐衛門は既にキリシタンであり霊名はベルナルドと言った。そして領民は全てキリシタンであり、其処にはお寺も、お社もなく、町の中



（200年前の長崎くんち奉納踊竹芸）
長崎古今集覧名勝図絵より

三、今年の奉納踊り町
今博多町

長崎に丸山・寄合町という遊里が造られたのは寛永一九年（二六四三）である。そして、それ以前の遊里は現在の今博多町附近にあった。其の故に前述の諏訪社奉納踊を舞った二人の女人は遊里の人と記してある。「長崎くんち」に最初に舞を奉納した女人の出身地は今博多町であると言う。其の故に、此の町の傘鉾の飾は奉納舞樂の意を込めて趣向されている。即ち中央に諏訪社をあらわす金の御幣をたて、其の前に舞樂の太鼓と舞人が手に持つ櫛を配している。奉納踊は、当然この傘鉾に合せて本踊（長崎くんち本来の踊の意）である。

玉園町

本町は旧上筑後町を中心に旧東上町の一部分が加わって近年・形成された町であるが傘鉾は旧上筑後町の物を使用している。同町は諏訪社神域の隣町であるので、傘鉾の飾は神樂奉納の意を現し、中央に櫛を置いて神域をあらわし、其の前に奉納踊呈上の意を込めて金かな具付の八脚朱塗の美しい高台を配し、其の上に神樂鈴・中啓を置いている。そして、この傘鉾のみせどころは、神樂鈴につけた五色の長絹が長く垂れ、その長絹が傘鉾の舞と共に「あでやかにナビク」ところにある。奉納踊は昔より筑後獅子と言い、今年は長与町の獅子舞が奉納される。

魚町

現在の魚町は旧今魚町を中心に旧本大工町・旧酒屋町の一部が加わって形成されている。傘鉾は旧今魚町の物を使用している。其の故に傘鉾は今魚町の町名に因んで鯛の入った魚籃二重を中心に、青竹にかけた網、海辺の葎を背景にして、その前に網でとれた伊勢海老、ワセ（魚）を配している。そして其等の殆どが天保年間（一八三〇年頃）に造られた長崎ビードロ細工で市の文化財に指定されている。出し物は之れも町名に因んで川船であり、その船の船頭さんの衣装には豪華な長崎刺繍が施されている。川船のみせどころは、船頭さんの網うちと船の勇壮な引き廻しにある。

籠町

籠町と言えば長崎の人達は「ジャオドリ」と言う。本来は蛇踊の文字を書いていたが近年は籠踊の文字を書くようになっていた。この町が奉納踊に「ジャ踊」を出すようになったのは一七九〇年頃からで、隣の唐人屋

心・森崎の地にはサンタ・マリヤの教会が建っていた。

其の後、豊臣秀吉・徳川家康と政権は移り、一五九七年には二十六聖人の殉教、やがてキリシタン禁教令の厳命があり、街では寺院や神社の建立が始まっている。

一六〇〇年頃、先ず対岸稲佐の地に久留米善導寺の僧聖誉（浄土宗）は悟真寺を創立。其の後、奉行所の援助もあって長崎市内に寺院の創立が始まっている。

一六二四年頃、博多土居町にあった諏訪社の分霊を修験者金重院賢清（山伏）は奉持して長崎の地に来ている。その地は西山口と言い、現在の松森天満宮の社地であった。其の故に、此の地を旧記には「モトスワ」と記してある。

賢清は諏訪社の御分霊と共に、博多より住吉社の御分霊も奉持し、その両社の大祭日を前述の九州地方の慣例にならって九月九日（クンチ）とし、寛永十一年（一六三四）より始めたとして記してある。勿論、初期の「長崎クンチ」は旧九月九日の一日のみであったが、後世になると之に前夜祭がつき九月七日・八日・九日と三日間となっている。

長崎クンチの初期の記録をみると、「くんちには二人の遊女の舞を奉納す、その遊女の名は音羽と高尾」とある。当時の遊女町は現在の今博多町附近にあり、当時すでに遊女の長崎くんち奉納行列には小さな傘飾りが持ち出されている。そして、この傘飾りが後世には大型となり、現在の傘鉾となっている。

「長崎くんち」がほぼ現在のように整備されたのは寛文十二年（一六七二）からであるが、当時はまだ傘鉾飾りも簡略であり、蛇踊も・川船も・コッコデショもなかったが、当日は街をあげての大賑わいであり、その当時の記録も、其の模様を描いた絵画も残っている。

戦後の「長崎くんち」には町名の変更や服装・習慣等の変化もあったが、国は昭和五四年「長崎くんち奉納踊りの行事は、長崎独特の文化的伝統を多く伝えているもの」として「国重要無形民俗文化財」として指定され現在に至っている。

敷内土神堂の祭礼のとき唐人達が土神堂に奉納した「ジャ踊」を習い、長崎くんちに奉納し大好評であったので、以来、籠町の奉納踊はジャ踊となっている。傘鉾飾りはジャ踊に因んで蛇囃子に使う唐楽器の長ラッパ、銅羅、片張太鼓を巧みに配し、ラッパには紅白の縮緬を長く垂らし傘鉾のまいに合せてひるがえる趣向が評判である。

江戸町

この町は出島オランダ屋敷が完成した寛永十三年（一六三六）より大いに発展している。其の故にこの町の傘鉾も奉納踊もオランダに因んだもので造られている。特に町印の「タコの枕」は、出島のオランダ人がサインして此の町に贈ったものである。私は先年、同町の三浦孝治翁より、翁の祖父が弘化四年（一八四七）、子どもの時に江戸町クンチ奉納踊オランダ隊で使用されたオランダ製軍服を戴いたことがある。（現在市立博物館蔵）同町の奉納踊の見せどころは、オランダ隊・オランダ船の入港と引き廻しにある。

風信

○今月は原爆関係の書籍二冊を戴いた。「光源寺門信徒・原爆その悲しみを越え」（長崎・光源寺編）と、幼きイエズス会「原爆六〇周年記念誌」（st相川ノブ編集・宝塚市同会出版）、共に原爆の日の事を思いださせて、さびしかった。

○神戸市立博物館岡泰正先生より長崎ガラス研究の新資料「長崎伝硝子製」を贈って戴いた。新資料であり大いに参考になり感謝している。

○恒例の中国研修旅行。今年は十月十五日より二十日まで福建省のご協力を受けて出発します。（コース）・漳州古寺。マリヤ観音の製地・徳化。鄭成功の故郷・南靖。媽祖の出生地・眉州島、と回教清浄教会など。案内指導・越中哲也・洪成慧、会長・原田正美、副会長高尾昇、餅田健。事務局長川崎道利、顧問本保善一郎。（参加希望者は事務局上田まで御電話下さい）

○十月三日夜は「庭みせ」。七年ぶりに有名な玉園町旧迎陽亭の庭園が公開され、現在の長崎に残る唯一の古式な「傘鉾飾り」が拝見される。自由に御参加下さい。尚当
日は表千家昇園会の茶席も用意される。

